

一房のぶどう



第17号

平成21年9月15日 編集・発行 / あきる野市教育委員会
〒197-0814 あきる野市二宮350 ☎042(558)1111(代)



陸上競技200mで関東大会8位入賞し、全国大会でも頑張った御堂中学校3年生石井裕里さん



陸上競技100mで全国大会に出場し大健闘の、東秋留小学校6年生の窪島隼君(右)と南秋留小学校5年生の入交大雅君(左)

日本図書館協会建築賞を受賞! 東部図書館エール

(2ページに関連記事)



関東大会準優勝の快挙を達成。全国大会でも健闘した西中学校ハンドボール部の皆さん



水泳800m自由形で関東大会優勝の快挙! ジュニア・オリンピックにも出場し活躍した東中学校2年生國澤明日香さん

新型インフルエンザの感染予防等について

○月曜日から金曜日17時から翌日9時と
土曜日・日曜日・祝日
0570・03・1203
聴覚に障害のある方は、相談票に必要事項を記入し、東京都保健医療情報センター(ひまわり)へ相談してください。FAX 03・5285・8080

新型インフルエンザ 相談センター
新型インフルエンザは一般の医療機関で受診できません。症状がある方は、事前に医療機関に電話で連絡し、受診の時間や方法等について指示を受けてから、必ずマスクを着用して受診してください。

インフルエンザにかかったと思ったら
新型インフルエンザは、これからの季節、今以上に感染が広がる可能性があります。みんなで感染予防に努めましょう。
○「手洗い」と「うがい」を習慣にしましょう。
○咳などの症状がある方は「マスクの着用を!」
○咳やくしゃみをするときは、「咳エチケット」を心がけましょう。これは、感染予防の手段のひとつで、咳やくしゃみをするとき、飛まつが周囲の人へ直接かからないように、ティッシュ・ペーパーなどで口と鼻を覆う心遣いです。

てくてくあきる野 むかし発見! 第13話「原小宮から瀬戸岡へ」

今回は中央公民館からスタートです。公民館の東の道を北に向かって歩きましょ。東中学校を過ぎたら広く整備された道を左へ。やがて交差点に出るので右折して少し進むと、信号機のある交差点に出ます。その一角に小さな祠がありますが、ここは小宮神社の遷座所です。平井川対岸にある小宮神社をここから拝むために設けられたものです。この地域の原小宮という名は、小宮神社を中心とする集落があり、原(はら)広い(平らな土地)の方の小宮という言い方が語源といわれます。この遷座所は平成20年、地元の方々によりきれいに整備されました。またその際に「小宮一神門」と刻まれた石碑が発見されました。現在、新しい鳥居の脇に建てられ、参拝する人々を迎えています。



遷座所と「小宮一神門」碑

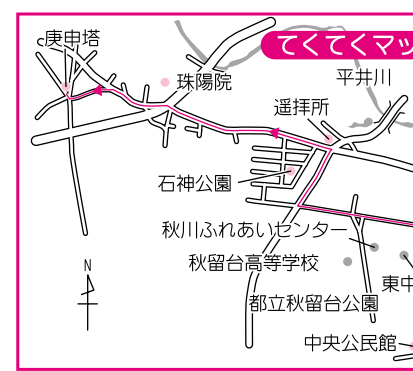
このかたわらには、もうひとつ祠があります。これは「とうがらし地蔵」です。はれものができた時などにとうがらしを供えると治るといわれています。医学が発達していなかった時代に様々な苦痛から逃れるため、沢山の人々がお参りしたことでしょう。お地藏さまにご挨拶をしてから西へ進み、直ぐに南に折れると、広い公園があります。ここは土地の名前をとって石神公園と呼ばれます。このあたり約17ヘクタールの地域は近年、区画整理事業が行われましたが、それに伴う発掘調査によって、古墳時代の初期(約千七百年前)から平安時代までの住居跡が合計91軒発見され、土器や石器などの遺物も沢山発見されました。この公園の下からも多くの住居跡が発見されました。これらは盛土して保存されています。公園が周囲の道路より高くなっているのは、そのためです。公園の中に遺跡の説明板が設置されていますので是非ご覧下さい。



住居跡が眠る石神公園

北の道に戻って西へ歩きましょう。約400メートルで信号のある交差点に出ます。ここから西は瀬戸岡です。ここを渡ると右側に室町時代に開かれた古刹珠陽院があります。臨済宗建長寺派で、瀬戸岡の東はずれに位置することから、山号を東岡山といっています。本尊は阿彌陀如来です。境内にはコブシ、サクラ、モクレン、ツツジなどが季節ごとに美しく咲き誇るので、時期を選んで参拝するのも楽しみです。道を更に西に進んで二つ目の三叉路を左へ。やがて5本の道が交差する場所に出ます。この北側には大きな石塔があります。石を数段組んだ上にあり、特徴的な形をした自然石に「猿田彦大神」と刻まれています。これは庚申塔と呼ばれるもので、中国の道教に由来する民間信仰「庚申待」によって建てられた石塔です。庚申待とは、庚申と呼ばれる特別な日に夜寝ると、体の中に棲んでいる虫が出てきて天に昇り、宇宙を取り仕切る神にその人が犯した罪を告げて命を奪われてしまうので、この夜は寝ないようにするという信仰で、夜通し語り合ったり、飲食を行うという風習です。こうした民間信仰は様々な他の信仰とも結びついたり、影響を受けています。例えば「猿田彦」は日本神話に出てくる神で、猿は神の使いとする信仰と結びついて、「猿」の文字を名に

虫が出てきて天に昇り、宇宙を取り仕切る神にその人が犯した罪を告げて命を奪われてしまうので、この夜は寝ないようにするという信仰で、夜通し語り合ったり、飲食を行うという風習です。こうした民間信仰は様々な他の信仰とも結びついたり、影響を受けています。例えば「猿田彦」は日本神話に出てくる神で、猿は神の使いとする信仰と結びついて、「猿」の文字を名に



もつこの神が信仰されるようになったものです。庚申塔にはこのほか、病魔を払うといわれる青面金剛や「見ざる聞かざる言わざる」の三猿を刻んだ塔などもあります。このような石塔を立てる習わしは、室町時代の末頃から始まったといわれます。市内には江戸時代の庚申塔が今も各所に残されています。路傍の石塔を見たら、是非観察してみてください。ただし、風化して壊れやすいものが多いので丁寧な観察をお願いします。(なお、この石塔には「天保四年」と刻まれています。古記録によると明治初年に再建されたものです。)



猿田彦大神

平成21年度アーティストインレジデンス事業

教育委員会では、アーティスト5日市(戸倉300番地)に9月1日から11月30日まで外国人1人と国内から2人の計3人の若手版画家を招き、小学生や地域との文化交流を図りながら版画の創作活動を行うアーティストインレジデンス事業を実施しています。今年度で17回目を迎え、アーティストの出身国もアメリカ、ブラジル、オーストラリア、ポルトガル、インド、イタリア、ブルガリアなど15か国に及んでいます。今年度は、次の方々を招いてレジデンス事業を実施しています。写真右から
●田中恵美さん(岡山県岡山市在住)
●Nadja Kringsさん(ドイツ・ベルリン在住)
●太田敦子さん(埼玉県入間市在住)

